

よのり 住民の帰りを待つ 福島県・夜ノ森の桜並木

内地では桜前線が順調に北上し、東北各地でもお花見が楽しめる時期になってきました。

福島県双葉郡富岡町の「夜ノ森(よのり)」は、樹齢百年を超えるソメイヨシノの並木が全長2.5キロにわたって桜のトンネルを作る、県内でも屈指の桜の名所です。現在、その大部分が「帰宅困難区域」に編入されているため、花を楽しめるのは「居住制限区域(日中9時から15時まで立ち入りができる)」の0.3キロほどの区間ですが、今年もみごとに咲き誇る様子がニュースなどで報じられ、避難先の町民たちの心の支えとなっています。



(2014年4月8日・FNN地域ニュース)

二〇一二年、遠藤勝也町長(当時)は、避難先でも夜ノ森の桜の開花を楽しみにしている町民のために、桜並木にライブカメラを設置しました(写真左下)。また、役場職員が主体となってメディア向け一般公開を行い、桜の様子をさまざまな媒体にのせて積極的に発信しました。

富岡町では住民の「二律帰還」を目指していますが、震災から一年後の避難区域再編でも帰宅困難地域が残ったため、未だ帰還は叶っていません。



2012年



2013年

「夜ノ森」の地名は、岩城藩と相馬藩が領有を巡って争い、「余(私)の森」と主張したことが由来とされています。一九〇〇年に相馬藩主の長男・半谷清寿が、農村開発のモデルとして夜ノ森公園に桜三百本を植えたのが桜並木の始まりでした。

そして今年4月12日、富岡町では全町民を招いて『復興の集い』が行われます。各仮設住宅から送迎バスが出て、車窓から満開の桜を見ることができそうです。

今は誰もいない町ですが、それでも変わらずに咲く桜が、これからも多くの人々に希望を与えてくれることと思います。



2014年4月8日

we support!

RQ
災害教育センター

MONTHLY

「東北に黒糖を送ろう! 大作戦しんぶん」改め

復興支援『すけさきた』

かめぼん しんぶん

「すけさきた」とは宮城県登米市あたりの言葉で「ボランティアに来たよ」という意味である

APRIL
11
2014



資料: 「東日本大震災から、被災地を歩く」(茨井哲也、2012)・2013富岡町夜ノ森の桜並木(3.11復興支援プロジェクト情報センター、2013)・「各地から桜の報告」(FNNローカル、2014.4)・「2014年春 夜ノ森の桜並木」(youtube2014.4.8)